

「高齢者の経済生活に関する意識調査」結果（概要版）

1 調査の目的

急速に進展する高齢社会に対して、国民の一人一人が長生きして良かったと実感できる社会を築き上げていくためには、就業・所得、健康・福祉、学習・社会参加、生活環境等に係る社会システムが高齢社会にふさわしいものとなるよう、不断に見直し、適切なものとしていく必要がある。

このような観点から、本調査においては、55歳以上の男女を対象とし、主として就業・所得分野に関連して、「高齢者の経済生活に関する意識」をテーマに取り上げ、高齢者の収入・支出、就労、資産（金融・不動産）、資産の譲与・管理に関する点など、高齢期において安定した生活を送るために重要になるとと思われる諸項目について調査を行うことにより、今後の高齢社会対策の推進に資することを目的とする。

2 調査対象者、調査方法、調査事項等

（1）調査対象者

全国の55歳以上の男女

（2）調査方法

調査員による面接聴取法

（3）調査事項

- ① 経済的な暮らし向きに関する事項
- ② 就労に関する事項
- ③ 収入・支出に関する事項
- ④ 資産に関する事項
- ⑤ 介護に関する事項
- ⑥ 社会保障制度に関する事項
- ⑦ 人と地域とのつながりに関する事項
- ⑧ 地域活動、ボランティア活動に関する事項
- ⑨ 高齢社会対策に関する事項

（4）調査実施期間

平成23年10月13日～10月23日

（5）標本抽出方法

層化二段無作為抽出法

(6) 標本数及び有効回収数

ア. 標本数、有効回収数、回収率

- ・標本数 4, 000人
- ・有効回収数(率) 2, 466人(61.7%)

イ. 調査不能数、不能内訳

- ・調査不能数(率) 1, 534人(38.3%)
- ・不能内訳

転居	86	長期不在	129
一時不在	324	住所不明	47
拒否	748	その他	200

(7) 調査委託機関

社団法人 新情報センター

(8) 前回調査

平成13年度調査は平成14年2月に実施しており、対象者は「60歳以上の男女」であった。平成18年度調査から対象者を「55歳以上の男女」に変更したため、今回調査との比較については、55歳～59歳は平成18年度調査と、60歳以上は平成13年度及び平成18年度調査と行っている。

(9) 調査の協力者

本調査は、内閣府政策統括官(共生社会政策担当)の委託により、社団法人新情報センターが学識経験者の協力を得て実施した。企画分析委員は以下のとおりとなっている。

池田 心豪 (労働政策研究・研修機構副主任研究員)
権丈 英子 (亜細亜大学経済学部教授)
重川 純子 (埼玉大学教育学部教授)
白波瀬 佐和子 (東京大学大学院人文社会系研究科教授)

(50音順、敬称略)

3 調査対象者の基本属性

(1) 性別（F1）、年齢別（F2）構成

- 性別の構成比は、総数、55～59歳、60歳以上ともに男性より女性がやや高くなっている。
- 55～59歳は平成18年度調査から調査対象として新たに加えられた。

	総数	性別		年齢別						
		男	女	55～59歳	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80歳以上	
総数										
総数 (人)	2,466	1,162	1,304	371	584	483	435	343	250	
構成比 (%)	100.0	47.1	52.9	15.0	23.7	19.6	17.6	13.9	10.1	
55～59歳										
総数 (人)	371	172	199	371	-	-	-	-	-	
構成比 (%)	100.0	46.4	53.6	100.0	-	-	-	-	-	
60歳以上										
総数 (人)	2,095	990	1,105	-	584	483	435	343	250	
構成比 (%)	100.0	47.3	52.7	-	27.9	23.1	20.8	16.4	11.9	
平成18年度										
総数 (人)	2,176	971	1,205	447	410	377	398	293	251	
構成比 (%)	100.0	44.6	55.4	20.5	18.8	17.3	18.3	13.5	11.5	
平成18年度 55～59歳										
総数 (人)	447	214	233	447	-	-	-	-	-	
構成比 (%)	100.0	47.9	52.1	100.0	-	-	-	-	-	
平成18年度 60歳以上										
総数 (人)	1,729	757	972	-	410	377	398	293	251	
構成比 (%)	100.0	43.8	56.2	-	23.7	21.8	23.0	16.9	14.5	
平成13年度										
総数 (人)	2,077	936	1,141	-	507	535	505	330	200	
構成比 (%)	100.0	45.1	54.9	-	24.4	25.8	24.3	15.9	9.6	

(2) 性・年齢別（F1・F2）

	総数	男性						女性					
		55～59歳	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80歳以上	55～59歳	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80歳以上
総数													
総数 (人)	2,466	172	292	242	203	149	104	199	292	241	232	194	146
構成比 (%)	100	7.0	11.8	9.8	8.2	6.0	4.2	8.1	11.8	9.8	9.4	7.9	5.9
55～59歳													
総数 (人)	371	172	-	-	-	-	-	199	-	-	-	-	-
構成比 (%)	100	46.4	-	-	-	-	-	53.6	-	-	-	-	-
60歳以上													
総数 (人)	2,095	-	292	242	203	149	104	-	292	241	232	194	146
構成比 (%)	100	-	13.9	11.6	9.7	7.1	5.0	-	13.9	11.5	11.1	9.3	7.0

4 調査結果の概要 ※60歳以上についての集計結果

(経済的な暮らし向きに関する事項)

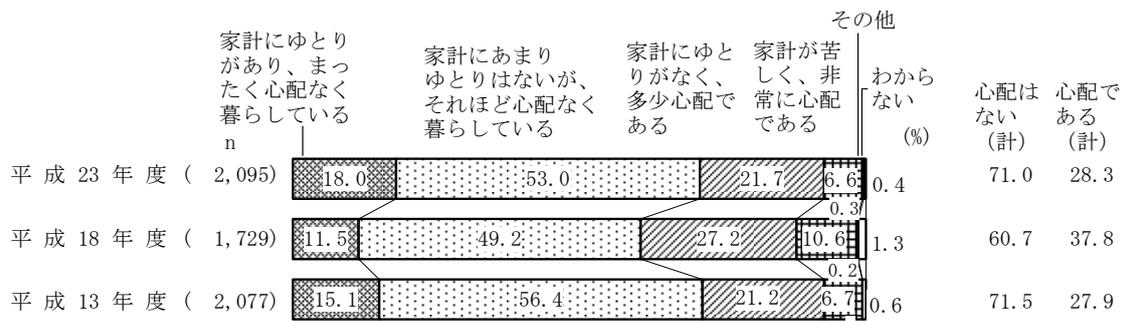
(1) 現在の経済的な暮らし向き(Q1)

「現在の経済的な暮らし向きについてどのように考えているか」尋ねてみると、「家計にゆとりがあり、まったく心配なく暮らしている」が18.0%、「家計にあまりゆとりはないが、それほど心配なく暮らしている」が53.0%となっており、両方を合わせた『心配はない(計)』が71.0%となっている。一方、「家計にゆとりがなく、多少心配である」は21.7%、「家計が苦しく、非常に心配である」が6.6%となっており、両方を合わせた『心配である(計)』は28.3%となっている。

時系列でみると、『心配はない(計)』割合は前回調査より10.3ポイント増加している。

「あなたは、ご自分の現在の経済的な暮らし向きについてどのようにお考えですか。」

(時系列比較)



	総数	ゆとりがあり、まったく心配ない	ゆとりはないが、それほど心配ない	家計にゆとりがなく多少心配である	家計が苦しく、非常に心配である	その他	わからない	心配はない(計)	心配である(計)
【総数】	2095	18.0	53.0	21.7	6.6	0.3	0.4	71.0	28.3
男性									
60～64歳	292	16.1	52.4	24.3	6.8	-	0.3	68.5	31.2
65～69歳	242	10.7	57.9	24.0	7.4	-	-	68.6	31.4
70～74歳	203	12.8	48.8	28.6	9.4	-	0.5	61.6	37.9
75～79歳	149	14.8	51.7	26.8	6.0	-	0.7	66.4	32.9
80歳以上	104	31.7	44.2	19.2	4.8	-	-	76.0	24.0
女性									
60～64歳	292	18.8	57.2	18.2	5.5	0.3	-	76.0	23.6
65～69歳	241	19.1	53.5	21.2	5.8	-	0.4	72.6	27.0
70～74歳	232	16.4	51.7	22.4	8.6	0.4	0.4	68.1	31.0
75～79歳	194	24.2	49.5	17.5	6.7	1.0	1.0	73.7	24.2
80歳以上	146	26.0	56.8	11.6	3.4	1.4	0.7	82.9	15.1

(就労に関する事項)

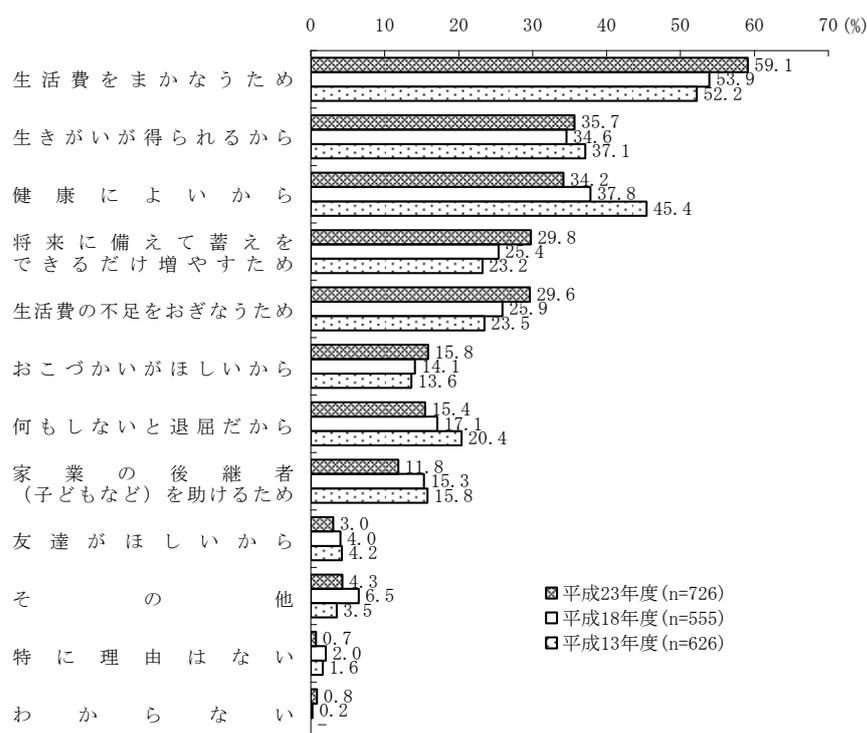
(2) 収入のある仕事をしている理由(Q4)

現在、収入のある仕事をしている人(726人(34.7%))に、「仕事をしている理由は何か」尋ねてみると、「生活費をまかなうため」の割合が最も高く、59.1%となっている。次いで「生きがいが得られるから」が35.7%、「健康によいから」が34.2%、「将来に備えて蓄えをできるだけ増やすため」が29.8%、「生活費の不足をおぎなうため」が29.6%などの順となっている。

時系列でみると、「生活費をまかなうため」、「将来に備えて蓄えをできるだけ増やすため」、「生活費の不足をおぎなうため」などの経済的な理由は増加傾向が顕著である。一方、「健康によいから」、「何もしないと退屈だから」は減少傾向を示しており、特に「健康によいから」は平成13年度と比べると割合が大きく減少している。

「あなたが収入のある仕事をしている理由は何でしょうか。」(3つまでの複数回答)

(時系列比較)



	該当数	生活費をまかなうため	生きがい得られるから	健康によいから	将来に備えて蓄えを増やすため	生活費の不足をおぎなうため	おこづかいがほしいから	何もしないと退屈だから	家業の後継者を助けるため	友達がほしいから	その他	特に理由はない	わからない
【総数】	726	59.1	35.7	34.2	29.8	29.6	15.8	15.4	11.8	3.0	4.3	0.7	0.8
男性													
60~64歳	217	83.4	28.6	29.0	45.6	30.0	14.7	13.4	8.3	1.8	0.9	-	-
65~69歳	119	58.8	36.1	31.9	26.1	30.3	22.7	13.4	10.1	1.7	4.2	-	2.5
70~74歳	59	54.2	35.6	35.6	20.3	28.8	15.3	15.3	23.7	1.7	6.8	-	-
75~79歳	35	65.7	31.4	34.3	28.6	31.4	5.7	8.6	14.3	5.7	8.6	-	-
80歳以上	13	46.2	53.8	46.2	7.7	23.1	7.7	23.1	15.4	-	7.7	-	-
女性													
60~64歳	123	49.6	38.2	30.9	32.5	33.3	17.9	14.6	10.6	4.1	3.3	1.6	1.6
65~69歳	80	36.3	45.0	37.5	18.8	30.0	20.0	15.0	12.5	6.3	6.3	3.8	1.3
70~74歳	47	38.3	34.0	42.6	12.8	21.3	4.3	25.5	10.6	2.1	8.5	-	-
75~79歳	21	28.6	42.9	66.7	9.5	23.8	14.3	23.8	19.0	4.8	9.5	-	-
80歳以上	12	25.0	58.3	50.0	-	25.0	8.3	41.7	25.0	8.3	8.3	-	-

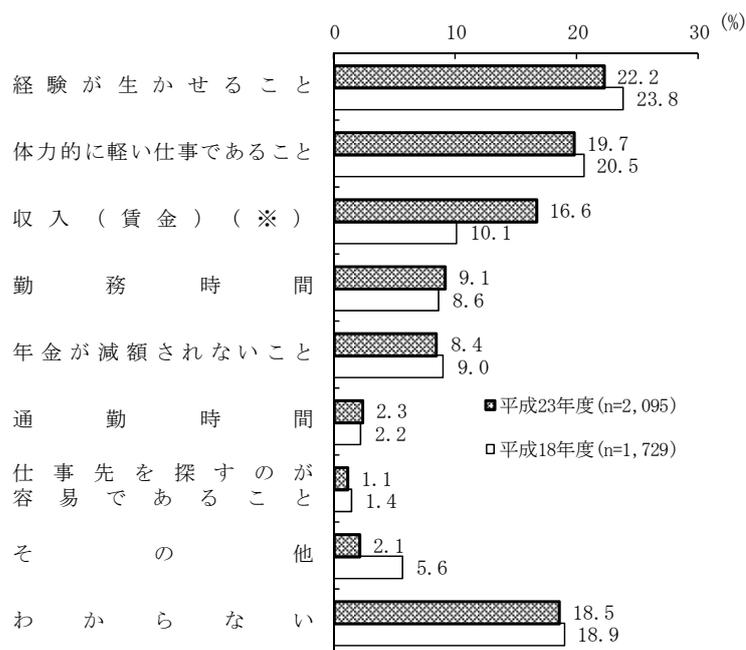
(3) 仕事を選ぶ際に最も重視する条件(Q9)

「仕事を選ぶに当たって、最も重視する条件」について尋ねてみると、「経験が生かせること」が22.2%と最も高く、以下、「体力的に軽い仕事であること」が19.7%、「収入(賃金)」が16.6%、「勤務時間」が9.1%などの順になっている。

前回調査と比較すると、「収入(賃金)」の割合が6.5ポイント増加しているのが目立つ。

「あなたが仕事を選ぶに当たって、最も重視する条件は何ですか。」

(時系列比較)



(※)平成18年度は「賃金」

	総数	収入(賃金)	勤務時間	経験が生かせること	体力的に軽い仕事であること	仕事先を探すのが容易であること	年金が減額されないこと	通勤時間	その他	わからない
【総数】	2095	16.6	9.1	22.2	19.7	1.1	8.4	2.3	2.1	18.5
男性										
60～64歳	292	36.3	9.9	27.1	10.3	1.0	7.9	0.7	2.4	4.5
65～69歳	242	20.2	7.4	36.0	12.4	1.2	8.3	1.2	2.1	11.2
70～74歳	203	11.8	4.4	30.0	21.2	2.0	9.4	0.5	2.0	18.7
75～79歳	149	13.4	5.4	22.1	22.1	0.7	7.4	0.7	2.0	26.2
80歳以上	104	5.8	3.8	19.2	20.2	2.9	9.6	1.0	2.9	34.6
女性										
60～64歳	292	15.1	18.8	21.6	18.8	0.7	7.9	6.2	1.7	9.2
65～69歳	241	13.7	13.3	15.8	26.1	0.8	8.7	3.3	1.7	16.6
70～74歳	232	14.2	7.3	17.7	25.4	-	8.6	3.9	1.7	21.1
75～79歳	194	8.8	6.7	11.9	27.3	1.5	10.3	0.5	1.5	31.4
80歳以上	146	11.0	4.1	13.7	17.8	0.7	6.8	2.7	3.4	39.7

(収入・支出に関する事項)

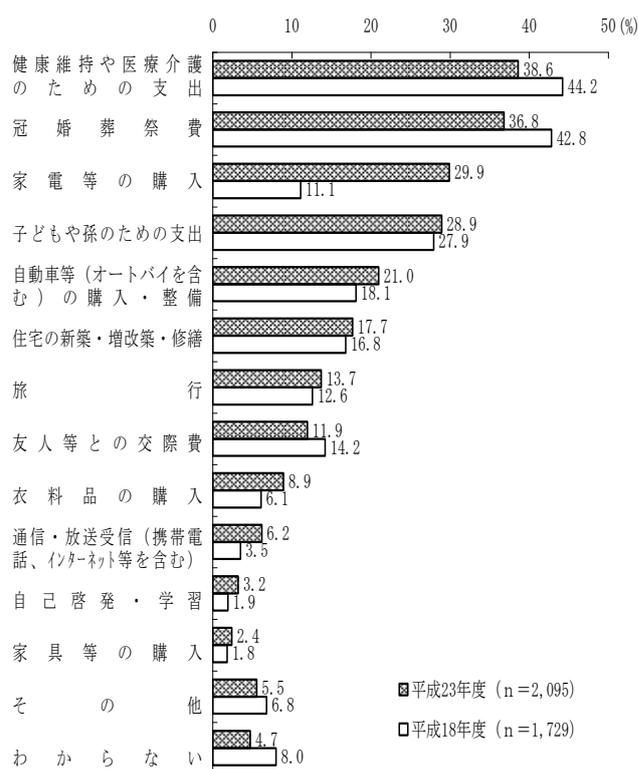
(4) 過去1年で大きな割合を占める支出(Q18)

「(夫婦の)過去1年間の消費等支出の中で大きな割合を占める支出(日常的な食費は除く)」について尋ねてみると、60歳以上では「健康維持や医療介護のための支出」が38.6%、「冠婚葬祭費」が36.8%、「家電等の購入」が29.9%、「子どもや孫のための支出」が28.9%、「自動車等(オートバイを含む)の購入・整備」が21.0%、「住宅の新築・増改築・修繕」が17.7%などの順となっている。

前回調査と比較すると、「家電等の購入」が18.8ポイント増加しているのが目立つ。一方、「冠婚葬祭費」は6.0ポイント、「健康維持や医療介護のための支出」5.6ポイント減少している。

「あなた方ご夫婦(あなた)の過去1年間の消費等支出の中で大きな割合を占める支出(日常的な食費は除きます)についてお聞きします。」(3つまでの複数回答)

(時系列比較)



	総数	健康維持 や医療介 護のため の支出	冠婚葬祭 費	家電等の 購入	子どもや 孫のため の支出	自動車等 の購入・ 整備	住宅の新 築・増改 築・修繕	旅行	友人等と の交際費	衣料品の 購入	通信・放 送受信	自己啓発 ・学習	家具等の 購入	その他	わから ない
【総数】	2095	38.6	36.8	29.9	28.9	21.0	17.7	13.7	11.9	8.9	6.2	3.2	2.4	5.5	4.7
男性															
60～64歳	292	31.8	32.2	34.2	25.0	30.5	20.5	15.4	13.0	12.0	12.3	4.1	2.7	6.5	3.8
65～69歳	242	37.6	29.8	32.6	25.6	25.6	13.6	17.8	11.6	7.4	9.5	3.3	3.3	5.4	4.1
70～74歳	203	38.4	26.6	29.6	29.1	26.1	15.8	9.4	15.3	9.9	5.4	4.4	1.0	5.9	5.9
75～79歳	149	36.9	36.9	25.5	20.8	24.2	18.8	15.4	10.7	8.1	4.0	2.0	2.7	4.0	6.7
80歳以上	104	50.0	29.8	24.0	26.9	16.3	21.2	8.7	10.6	7.7	1.9	2.9	1.0	10.6	5.8
女性															
60～64歳	292	31.2	38.0	37.3	34.6	23.3	20.9	16.4	9.9	7.9	7.5	3.4	3.1	3.1	3.4
65～69歳	241	39.4	41.9	33.6	27.0	21.2	19.5	16.2	10.0	9.5	6.6	1.7	3.3	3.3	2.9
70～74歳	232	40.9	46.1	23.3	35.8	17.7	19.0	10.8	9.9	7.8	4.3	3.9	2.2	5.2	3.4
75～79歳	194	45.4	44.3	23.7	33.0	8.8	12.9	11.3	16.5	6.2	1.5	3.1	1.0	9.3	5.7
80歳以上	146	48.6	41.1	23.3	27.4	3.4	12.3	9.6	12.3	12.3	0.7	2.1	2.1	5.5	9.6

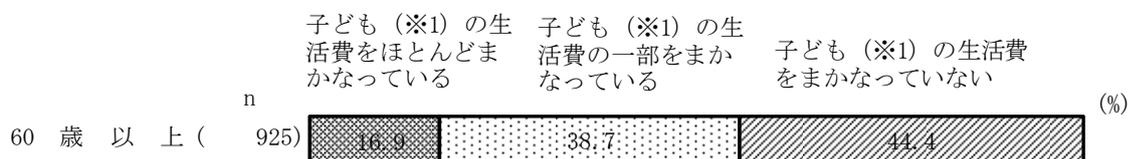
(96)

(5) 学校を卒業した同居子の生活費支援 (Q19)

同居の子がいる者に「(夫婦で)同居子の生活費をまかなっているか」について尋ねてみると、「子ども(子の配偶者を含む)の生活費をほとんどまかなっている」が16.9%、「子ども(子の配偶者を含む)の生活費の一部をまかなっている」が38.7%となっている。一方、「子ども(子の配偶者を含む)の生活費をまかなっていない」は44.4%となっている。

「経済的に心配な人」(Q1で「家計にゆとりがなく多少心配である」または「家計が苦しく非常に心配である」と回答した人)でみると、約5人に1人(19.8%)が「ほとんど負担」し、これに「一部を負担」(42.0%)を加えると6割超。

「あなた方ご夫婦(あなた)は、既に学校を卒業した、あなたご自身の子どもや子の配偶者の生活費をまかなうことがありますか。子どもから食費などを受け取っている場合は、差し引いて、この中からあてはまるものを1つ選んでお答えください。なお、生活費をまかなう子どもが複数いる場合は、あなたが支払う金額の最も多い子どもについてお答えください。」



(注)(※1)「子ども」は子の配偶者を含む

(注)子どもから食費などを受け取っている場合は差し引いて答える。

(注)生活費をまかなう子どもが複数いる場合は、支払う金額の最も多い子どもについて答える。

※「同居の子はすべて学生または幼児」と「わからない」を回答した者を除いて集計した。

	該当数	生活費をほとんどまかなっている	生活費の一部をまかなっている	生活費をまかなっていない
Q1 [現在の経済的な暮らし向き]				
ゆとりがあり、まったく心配ない	170	16.5	33.5	50.0
ゆとりはないが、それほど心配ない	466	15.0	39.1	45.9
家計にゆとりがなく多少心配である	222	18.9	45.0	36.0
家計が苦しく、非常に心配である	61	23.0	31.1	45.9
その他	3	33.3	-	66.7
わからない	3	33.3	-	66.7
心配はない(計)	636	15.4	37.6	47.0
心配である(計)	283	19.8	42.0	38.2

(%)

	該当数	生活費をほとんどまかなっている	生活費の一部をまかなっている	生活費をまかなっていない
【総数】	925	16.9	38.7	44.4
男性				
60~64歳	134	20.9	41.8	37.3
65~69歳	101	19.8	49.5	30.7
70~74歳	84	19.0	33.3	47.6
75~79歳	58	13.8	44.8	41.4
80歳以上	42	4.8	42.9	52.4
女性				
60~64歳	129	16.3	45.0	38.8
65~69歳	101	20.8	38.6	40.6
70~74歳	119	11.8	34.5	53.8
75~79歳	83	15.7	30.1	54.2
80歳以上	74	17.6	23.0	59.5

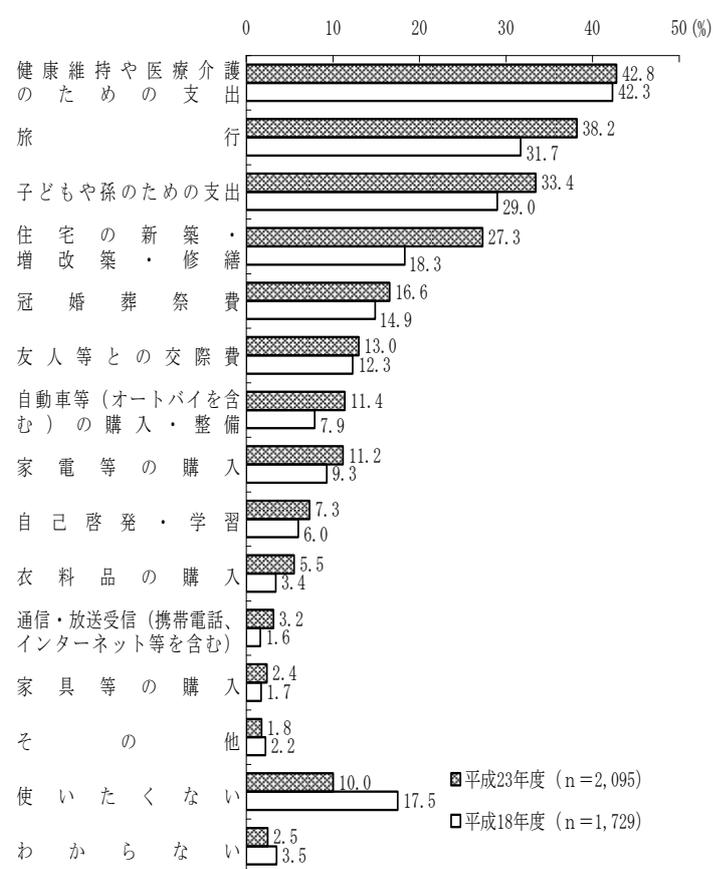
(6) 優先的にお金を使いたいもの(Q21)

「(夫婦が)今後、優先的にお金を使いたいと考えているもの」について尋ねてみると、「健康維持や医療介護のための支出」が42.8%で最も高く、以下、「旅行」が38.2%、「子どもや孫のための支出」が33.4%、「住宅の新築・増改築・修繕」が27.3%、「冠婚葬祭費」が16.6%などの順となっている。

前回調査と比較すると、「住宅の新築・増改築・修繕」が9.0ポイント、「旅行」が6.5ポイント増加しているのが目立つ。「子どもや孫のための支出」も4.4ポイント増加。

「あなた方ご夫婦(あなた)が、今後、優先的にお金を使いたいと考えているものについてお聞きします。」(3つまでの複数回答)

(時系列比較)



	総数	健康維持や医療介護のための支出	旅行	子どもや孫のための支出	住宅の新築・増改築・修繕	冠婚葬祭費	友人等との交際費	自動車等やオートバイを含む)の購入・整備	家電等の購入	自己啓発・学習	衣料品の購入	通信・放送受信	家具等の購入	その他	使いたくない	わからない
【総数】	2095	42.8	38.2	33.4	27.3	16.6	13.0	11.4	11.2	7.3	5.5	3.2	2.4	1.8	10.0	2.5
男性	292	37.3	47.6	33.6	30.8	12.3	12.0	22.9	15.4	10.6	6.2	5.8	3.1	1.4	5.8	1.7
60～64歳	242	39.3	47.5	33.5	29.3	10.7	11.6	16.9	14.5	7.9	5.8	3.3	2.9	1.2	7.4	2.5
65～69歳	203	43.8	37.9	32.5	29.1	12.3	12.3	14.8	9.9	6.9	5.4	3.4	3.4	1.5	11.3	2.5
70～74歳	149	42.3	31.5	34.9	20.8	18.8	13.4	9.4	9.4	6.7	4.0	4.0	2.0	2.7	15.4	2.7
75～79歳	104	45.2	17.3	33.7	29.8	12.5	6.7	7.7	6.7	5.8	1.0	-	2.9	5.8	14.4	4.8
80歳以上	292	39.4	52.4	33.9	31.8	16.4	12.7	12.3	11.0	7.9	5.1	2.7	2.1	1.0	8.2	1.4
女性	241	44.4	41.5	31.5	32.8	15.8	12.4	10.0	15.4	6.6	7.9	2.9	2.1	0.8	7.5	1.7
60～64歳	232	41.8	34.9	37.9	28.0	18.5	14.2	5.6	12.1	8.6	6.5	3.0	3.4	2.2	8.6	2.2
65～69歳	194	50.5	21.1	34.0	17.0	25.3	21.1	1.5	5.7	5.2	2.6	2.6	1.0	3.1	12.9	2.6
70～74歳	146	52.1	19.9	26.7	13.7	28.1	11.0	1.4	3.4	2.7	8.2	0.7	-	0.7	18.5	6.2

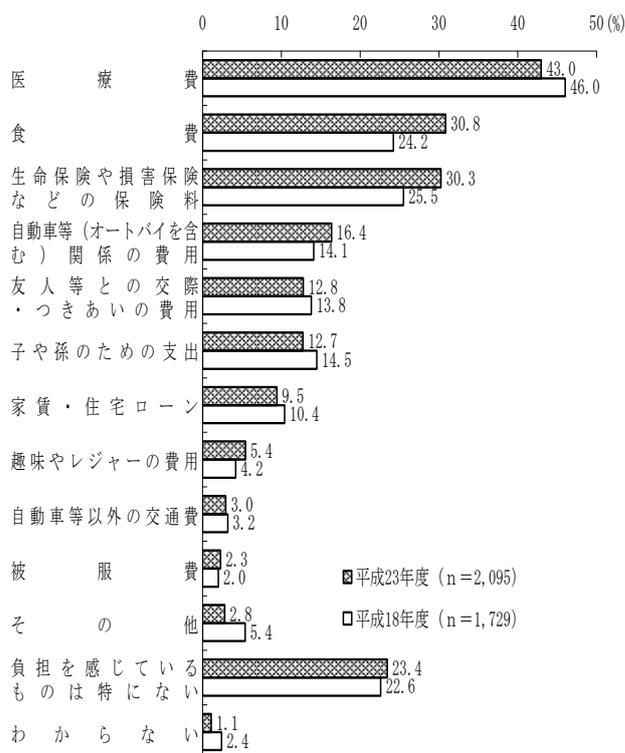
(7) 日常で負担を感じる支出(Q22)

「日常生活の支出の中で負担を感じている支出はあるか」尋ねてみると、「医療費」が43.0%と最も高く、以下、「食費」が30.8%、「生命保険や損害保険などの保険料」が30.3%、「自動車等(オートバイを含む)関係の費用」が16.4%などの順となっている。なお、「負担を感じているものは特にない」は23.4%となっている。

前回調査と比較すると、「食費」が6.6ポイント、「生命保険や損害保険などの保険料」が4.8ポイント増加しているのが目立つ。

「日常生活の支出の中で負担を感じている支出はありますか。」(3つまでの複数回答)

(時系列比較)



		総数	医療費	食費	生命保険や損害保険などの保険料	自動車等関係の費用	友人等との交際・つきあいの費用	子や孫のための支出	家賃・住宅ローン	趣味やレジャーの費用	自動車等以外の交通費	被服費	その他	負担を感じているものは特にない	わからない
【総数】		2095	43.0	30.8	30.3	16.4	12.8	12.7	9.5	5.4	3.0	2.3	2.8	23.4	1.1
男性	60～64歳	292	44.9	39.7	42.8	25.3	8.2	9.9	15.8	9.9	3.4	3.8	1.4	12.7	0.7
	65～69歳	242	43.0	31.8	32.6	21.1	14.0	10.7	12.0	7.0	2.9	2.9	2.5	21.1	0.8
	70～74歳	203	41.4	36.5	27.1	21.7	11.3	17.2	7.4	8.4	2.5	2.0	5.4	18.2	1.0
	75～79歳	149	45.0	36.2	22.8	18.8	16.8	12.1	6.0	5.4	2.0	1.3	3.4	23.5	2.0
女性	80歳以上	104	51.0	22.1	12.5	8.7	9.6	14.4	4.8	1.9	1.0	1.9	4.8	33.7	-
	60～64歳	292	39.7	33.2	42.5	19.5	12.3	12.3	11.6	4.1	2.7	0.7	3.8	19.2	1.0
	65～69歳	241	48.1	29.0	41.1	15.4	13.3	12.4	8.3	5.4	2.9	2.1	2.9	19.9	0.4
	70～74歳	232	43.5	25.9	28.4	14.7	15.9	15.1	9.1	3.9	2.2	2.2	1.3	25.4	0.9
	75～79歳	194	36.6	23.2	12.4	3.6	12.9	14.9	5.2	2.6	6.2	1.5	2.6	38.7	1.5
80歳以上	146	39.0	20.5	10.3	1.4	15.1	9.6	6.2	1.4	2.7	4.8	1.4	39.7	3.4	

(資産に関する事項)

(8) 現在の貯蓄額(Q23)

「(夫婦の)貯蓄(預貯金、信託、債権、株式、保険など)の総額は、およそどれくらいになるか」尋ねてみると、「1,000万円～2,000万円未満」が10.8%、「100万円未満」が8.8%、「700万円～1,000万円未満」が8.0%、「2,000万円～3,000万円未満」が7.1%などの順となっている。なお、「貯蓄はない」が9.9%、「わからない」が21.9%となっている。『300万円未満(計)貯蓄なし含む』は30.4%である。

時系列にみると、「100万円未満」の割合は減少傾向がみられ、平成13年度より5.8ポイント低下している。一方、『1,000万円以上(計)』の割合は増加している。

「あなた方ご夫婦(あなた)の貯蓄(預貯金、信託、債券、株式、保険など)の総額は、およそどれくらいになりますか。」

(時系列比較)

	総数	100万円 未満	100万円 ～ 200万円 未満	200万円 ～ 300万円 未満	300万円 ～ 500万円 未満	500万円 ～ 700万円 未満	700万円 ～ 1,000万円 未満	1,000万円 ～ 2,000万円 未満
平成23年度	2,095	8.8	5.3	6.4	6.9	6.7	8.0	10.8
平成18年度	1,729	10.3	4.9	4.7	5.1	5.1	5.7	8.5
平成13年度	2,077	14.6	5.9	5.9	8.0	6.3	6.5	7.6

	2,000万円 ～ 3,000万円 未満	3,000万円 ～ 5,000万円 未満	5,000万円 以上	貯蓄はな い	わからな い	300万円 未満(計) 貯蓄なし 含む	300万円 ～ 1,000万円 未満(計)	1,000万円 以上(計)
平成23年度	7.1	4.1	4.1	9.9	21.9	30.4	21.7	26.1
平成18年度	5.2	3.6	2.7	12.6	31.5	32.5	15.9	20.0
平成13年度	3.7	1.8	1.7	*	37.9	26.4	20.8	14.8

*平成13年度は「貯蓄ない」は選択肢になし

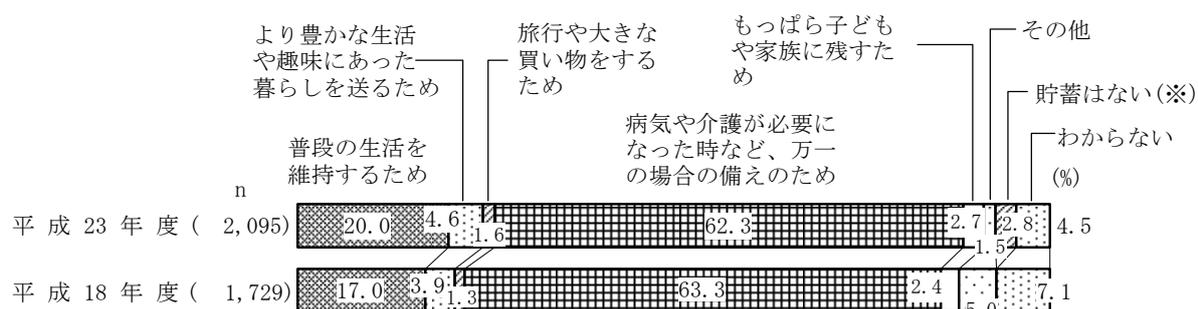
	総数	100万円 未満	100万円 ～ 200万円 未満	200万円 ～ 300万円 未満	300万円 ～ 500万円 未満	500万円 ～ 700万円 未満	700万円 ～ 1000万円 未満	1000万円 ～ 2000万円 未満	2000万円 ～ 3000万円 未満	3000万円 ～ 5000万円 未満	5000万円 以上	貯蓄はな い	わからな い	300万円 未満(計) 貯蓄なし 含む	300万円 ～ 1000万円 未満(計)	1000万円 以上(計)
【総数】	2095	8.8	5.3	6.4	6.9	6.7	8.0	10.8	7.1	4.1	4.1	9.9	21.9	30.4	21.7	26.1
男性																
60～64歳	292	7.9	4.5	8.2	7.5	6.8	7.2	14.0	8.9	3.1	5.1	6.8	19.9	27.4	21.6	31.2
65～69歳	242	6.6	5.0	6.2	7.4	6.2	8.7	9.5	10.7	2.9	3.7	9.9	23.1	27.7	22.3	26.9
70～74歳	203	9.4	4.9	7.9	9.4	4.9	5.4	9.9	6.9	4.4	3.0	11.3	22.7	33.5	19.7	24.1
75～79歳	149	12.1	8.1	6.0	4.7	9.4	8.1	14.8	5.4	3.4	0.7	9.4	18.1	35.6	22.1	24.2
80歳以上	104	7.7	4.8	2.9	5.8	11.5	9.6	11.5	1.9	2.9	7.7	8.7	25.0	24.0	26.9	24.0
女性																
60～64歳	292	9.2	3.8	3.8	4.8	5.5	10.6	12.0	7.5	6.5	6.5	8.6	21.2	25.3	20.9	32.5
65～69歳	241	8.3	4.1	5.0	6.6	6.6	7.9	11.6	6.2	6.2	4.1	7.9	25.3	25.3	21.2	28.2
70～74歳	232	9.1	7.8	8.2	7.8	8.2	4.3	8.6	6.9	3.0	1.7	13.8	20.7	38.8	20.3	20.3
75～79歳	194	8.2	4.1	9.8	6.2	5.7	9.8	9.3	4.6	4.6	3.1	12.9	21.6	35.1	21.6	21.6
80歳以上	146	11.6	8.2	4.1	8.9	5.5	9.6	4.8	7.5	1.4	5.5	11.0	21.9	34.9	24.0	19.2

(9) 貯蓄の目的(Q27)

「どういう目的で貯蓄をしているか」尋ねてみると、「病気や介護が必要になった時など、万一の場合の備えのため」が 62.3%と最も高く、以下、「普段の生活を維持するため」が 20.0%、「より豊かな生活や趣味にあった暮らしを送るため」が 4.6%、「もっぱら子どもや家族に残すため」が 2.7%の順となっている。一方、「貯蓄はない」は、2.8%である。

「あなたはどのような目的で貯蓄をしていますか。この中から一番近いと思うものを1つ選んでお答えください。」

(時系列比較)



(注) (※)平成18年度は「貯蓄はない」は選択肢になし

		(%)								
		総数	普段の生活を維持するため	より豊かな生活の暮らしを送るため	旅行や大きな買い物をするため	病気など万一の場合の備えのため	もっぱら子どもや家族に残すため	その他	貯蓄はない	わからない
【 総 数 】		2095	20.0	4.6	1.6	62.3	2.7	1.5	2.8	4.5
男性	60～64歳	292	28.4	7.5	1.4	54.1	2.7	1.7	1.4	2.7
	65～69歳	242	24.8	3.3	2.5	59.9	3.7	1.7	1.7	2.5
	70～74歳	203	22.7	3.0	1.0	61.6	3.0	1.0	3.4	4.4
	75～79歳	149	22.8	4.0	4.0	56.4	1.3	0.7	2.0	8.7
	80歳以上	104	17.3	3.8	1.9	65.4	1.0	1.9	2.9	5.8
女性	60～64歳	292	21.2	5.8	1.7	63.4	1.7	1.0	2.1	3.1
	65～69歳	241	15.8	5.8	0.4	69.3	2.5	1.2	1.2	3.7
	70～74歳	232	17.2	3.9	0.9	62.9	3.4	1.7	3.4	6.5
	75～79歳	194	9.3	3.1	2.1	70.1	3.1	2.1	6.2	4.1
	80歳以上	146	14.4	2.7	0.7	62.3	4.1	2.7	5.5	7.5

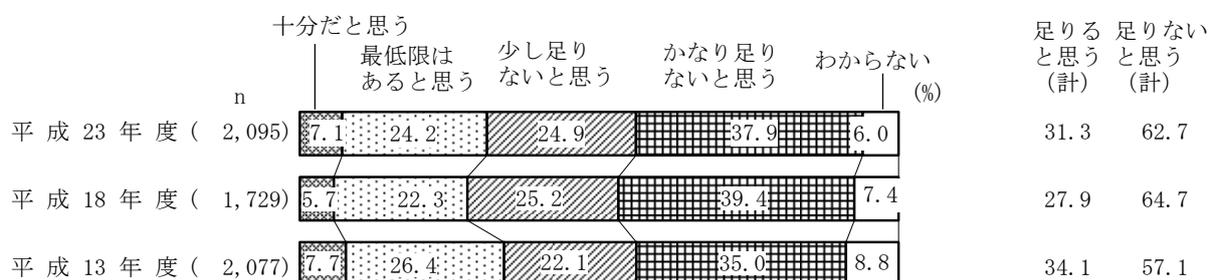
(10) 老後の備え(Q28)

「現在の貯蓄の額が、(夫婦の) 老後への備えとして十分だと考えるか」尋ねてみると、「十分だと思う」が 7.1%、「最低限はあると思う」が 24.2%となっており、両方を合わせた『足りると思う(計)』が 31.3%となっている。一方、「少し足りないと思う」が 24.9%、「かなり足りないと思う」が 37.9%となっており、両方を合わせた『足りないと思う(計)』は 62.7%となっている。

時系列でみると、『足りると思う(計)』割合は前回調査よりやや増加しているが、平成 13 年度よりやや下回っている。

「現在の貯蓄の額は、今後のあなた方ご夫婦(あなた)の老後への備えとして十分だとお考えですか。」

(時系列比較)



		(%)							
		総数	十分だと思 う	最低限は あると思 う	少し足り ないと思 う	かなり足 りないと 思う	わからな い	足りると 思う (計)	足りない と思う (計)
【 総 数 】		2095	7.1	24.2	24.9	37.9	6.0	31.3	62.7
男性	60～64歳	292	4.5	22.9	27.1	41.8	3.8	27.4	68.8
	65～69歳	242	5.4	20.2	32.2	39.7	2.5	25.6	71.9
	70～74歳	203	7.4	19.7	25.1	42.4	5.4	27.1	67.5
	75～79歳	149	5.4	24.2	23.5	42.3	4.7	29.5	65.8
	80歳以上	104	13.5	35.6	17.3	26.9	6.7	49.0	44.2
女性	60～64歳	292	4.8	25.7	24.7	40.1	4.8	30.5	64.7
	65～69歳	241	5.4	28.6	26.6	30.7	8.7	34.0	57.3
	70～74歳	232	4.7	22.0	23.7	46.1	3.4	26.7	69.8
	75～79歳	194	14.4	21.6	21.1	31.4	11.3	36.1	52.6
	80歳以上	146	13.7	27.4	19.2	26.7	13.0	41.1	45.9

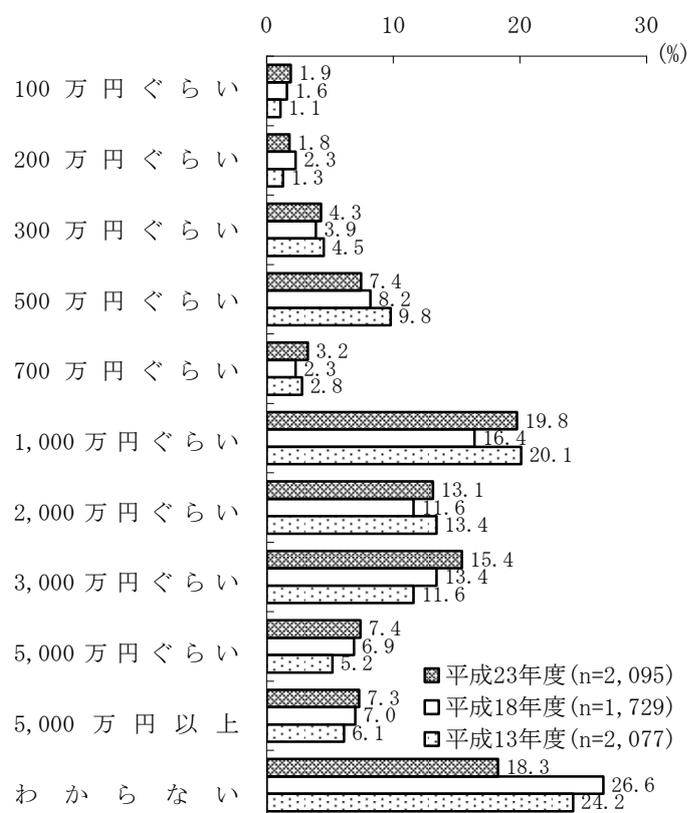
(11) 老後への貯蓄額(Q29)

「(夫婦の) 老後への備えとして、貯蓄はどのくらい必要だと思うか」尋ねてみると、「1,000万円ぐらい」が19.8%と最も高く、「3,000万円ぐらい」が15.4%、「2,000万円ぐらい」が13.1%などの順となっている。なお、「わからない」が18.3%となっている。

前回調査と比較すると、3,000万円以上の割合は増加傾向がみられる。「500万円ぐらい」の割合は減少傾向を示している。

「あなたは、今後のあなた方ご夫婦(あなた)の老後への備えとして、貯蓄はどのくらい必要だと思いますか。」

(時系列比較)



		(%)										
総数		100万円 ぐらい	200万円 ぐらい	300万円 ぐらい	500万円 ぐらい	700万円 ぐらい	1000万円 ぐらい	2000万円 ぐらい	3000万円 ぐらい	5000万円 ぐらい	5000万円 以上	わからな い
【総数】	2095	1.9	1.8	4.3	7.4	3.2	19.8	13.1	15.4	7.4	7.3	18.3
男性	292	-	0.7	2.4	7.5	3.1	19.5	17.1	19.9	9.9	10.3	9.6
60～64歳	242	2.1	0.8	3.7	10.3	3.3	21.1	15.3	15.3	7.9	5.8	14.5
70～74歳	203	2.0	2.0	4.9	10.3	3.4	22.2	11.8	15.8	5.9	7.4	14.3
75～79歳	149	1.3	2.7	6.0	8.7	5.4	20.8	12.8	12.1	5.4	6.0	18.8
80歳以上	104	4.8	3.8	4.8	6.7	4.8	15.4	7.7	10.6	8.7	5.8	26.9
女性	292	1.4	0.7	2.7	3.1	1.0	19.2	15.8	21.2	9.6	11.3	14.0
60～64歳	241	0.4	1.7	1.7	5.0	4.1	20.3	12.9	19.5	8.3	9.1	17.0
70～74歳	232	2.6	3.0	4.7	9.9	3.4	24.1	11.2	14.7	5.2	3.0	18.1
75～79歳	194	2.1	3.1	6.7	8.2	3.1	14.9	10.8	7.7	6.7	6.2	30.4
80歳以上	146	6.2	2.1	9.6	5.5	2.7	16.4	8.9	6.2	3.4	3.4	35.6

(介護に関する事項)

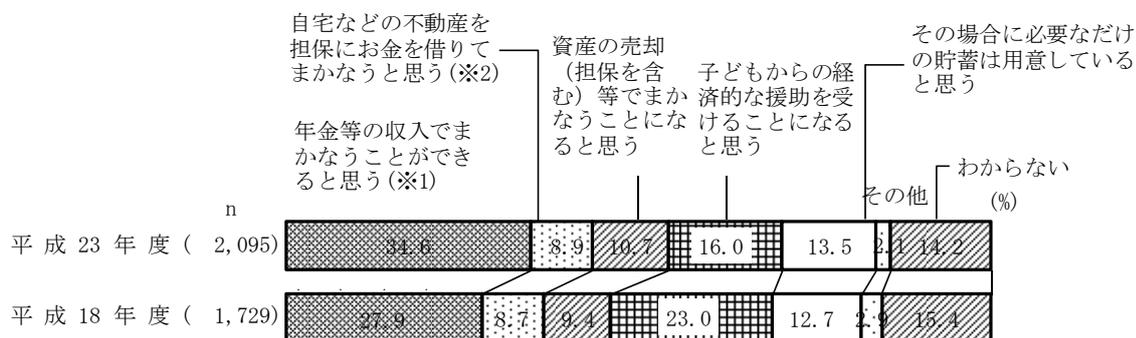
(12) 世話の費用(Q33)

「子どもに介護などの世話を受けたり、老人ホームに入居したり、在宅でホームヘルプサービスを受けたりする場合の費用をどのようにまかなうか」尋ねてみると、「特に用意しなくても年金等の収入でまかなうことができると思う」が 34.6%、「貯蓄だけでは足りないが、自宅などの不動産を担保にお金を借りてまかなうことになると思う」が 8.9%、「資産の売却(担保を含む)等でまかなうことになると思う」が 10.7%、「子どもからの経済的な援助を受けることになると思う」が 16.0%、「その場合に必要なだけの貯蓄は用意していると思う」が 13.5%などのようになっている。

時系列で見ると、「特に用意しなくても年金等の収入でまかなうことができると思う」は前回調査より 6.7 ポイント増加している。一方、「子どもからの経済的な援助を受けることになると思う」は 7.0 ポイント減少している。

「子どもに介護などの世話を受けたり、老人ホームに入居したり、在宅でホームヘルプサービスを受けたりする場合に、ある程度の費用が必要になりますが、それはどのようにしてまかなうことになると思われますか。」

(時系列比較)



(注)

(※1)年金等の収入でまかなうことができると思う：

「特に用意しなくても年金等の収入でまかなうことができると思う」

(※2)自宅などの不動産を担保にお金を借りてまかなうと思う

「貯蓄だけでは足りないが、自宅などの不動産を担保にお金を借りてまかなうことになると思う」

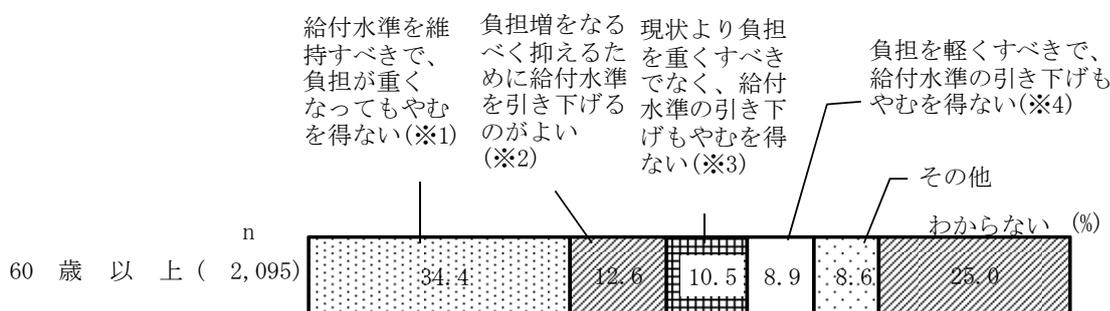
	総数	用意しなくても年金収入でまかなう	不動産を担保にお金借りてまかなう	資産の売却等でまかなうことになる	子どもからの経済的な援助を受ける	必要なだけの貯蓄は用意している	その他	わからない
【 総 数 】	2095	34.6	8.9	10.7	16.0	13.5	2.1	14.2
男性								
60～64歳	292	30.5	15.8	17.5	8.6	13.0	2.1	12.7
65～69歳	242	34.7	9.9	14.9	11.6	11.6	1.7	15.7
70～74歳	203	34.5	8.9	11.3	18.7	12.8	1.0	12.8
75～79歳	149	37.6	7.4	12.8	15.4	10.1	2.7	14.1
80歳以上	104	47.1	2.9	1.9	18.3	19.2	1.0	9.6
女性								
60～64歳	292	30.1	9.2	13.7	15.4	15.8	1.4	14.4
65～69歳	241	33.2	11.2	10.0	17.8	12.9	1.7	13.3
70～74歳	232	37.1	7.8	6.5	17.2	12.5	3.9	15.1
75～79歳	194	34.5	5.2	3.1	20.6	14.4	2.1	20.1
80歳以上	146	38.4	2.1	6.2	23.3	15.1	3.4	11.6

(社会保障制度に関する事項)

(13) 社会保障給付と負担(Q34)

「今後の年金の給付水準と税金や社会保障費の負担のあり方についてどのように考えるか」について尋ねてみると、「給付水準を維持すべきで、負担が重くなってもやむを得ない」が34.4%、「負担増をなるべく抑えるために給付水準を引き下げるのがよい」が12.6%、「現状より負担を重くすべきでなく、給付水準の引き下げもやむを得ない」が10.5%、「負担を軽くすべきで、給付水準の引き下げもやむを得ない」が8.9%などとなっている。

「今後の年金の給付水準と社会保険費負担のあり方について、あなたはどのように考えますか。」



(注)

(※1) 給付水準を維持すべきで、負担が重くなってもやむを得ない：

「現在の年金の給付水準を今後も維持すべきであり、そのためには、今後、税金や社会保障費の負担が重くなっても、やむを得ない」

(※2) 負担増をなるべく抑えるために給付水準を引き下げるのがよい：

「今後、税金や社会保障費の負担が重くなっていくことはやむを得ないが、その上昇をなるべく抑えるために、年金の給付水準をある程度引き下げたりするのがよい」

(※3) 現状より負担を重くすべきでなく、給付水準の引き下げもやむを得ない：

「税金や社会保障費の負担を現在の水準より重くするべきではなく、そのために、年金の給付水準を引き下げたりしても、やむを得ない」

(※4) 負担を軽くすべきで、給付水準の引き下げもやむを得ない：

「税金や社会保障費の負担を現在の水準より軽くするべきであり、そのために、年金の給付水準を引き下げたりしても、やむを得ない」

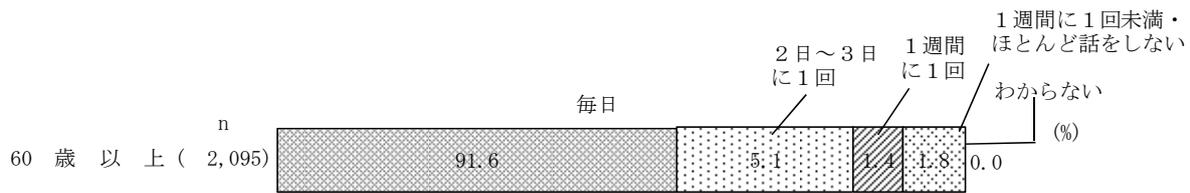
		(%)						
		総数	給付水準維持、負担増やむを得ない	負担増をなるべく抑えるために給付水準をある程度引き下げるのがよい	負担は同じ、給付水準の引き下げを容認	負担軽減、給付水準引き下げを容認	その他	わからない
【 総 数 】		2095	34.4	12.6	10.5	8.9	8.6	25.0
男性	60～64歳	292	37.0	15.4	14.7	8.6	10.6	13.7
	65～69歳	242	42.1	11.2	11.2	10.7	7.0	17.8
	70～74歳	203	35.5	14.8	8.9	8.9	7.4	24.6
	75～79歳	149	36.2	10.1	12.1	11.4	4.0	26.2
	80歳以上	104	40.4	11.5	10.6	10.6	6.7	20.2
女性	60～64歳	292	33.6	14.4	12.0	10.3	10.6	19.2
	65～69歳	241	32.8	12.9	9.1	8.7	10.4	26.1
	70～74歳	232	30.6	12.9	7.8	8.2	10.8	29.7
	75～79歳	194	28.4	10.8	7.2	5.2	8.2	40.2
	80歳以上	146	26.7	8.2	9.6	6.2	4.8	44.5

(人や地域とのつながりに関する事項)

(14) 会話の頻度(Q35)

「電話やEメールを含めて、ふだんの程度、人(同居の家族を含む)と会話するか」を尋ねてみると、「毎日」が91.6%と大多数を占めている。大きく離れて「2日～3日に1回」が5.1%、「1週間に1回」が1.4%、「1週間に1回未満・ほとんど話をしない」が1.8%の順となっている。

「あなたは、ふだんの程度、人(同居の家族を含む)と話をしますか。電話やEメールも含めてお答えください。」



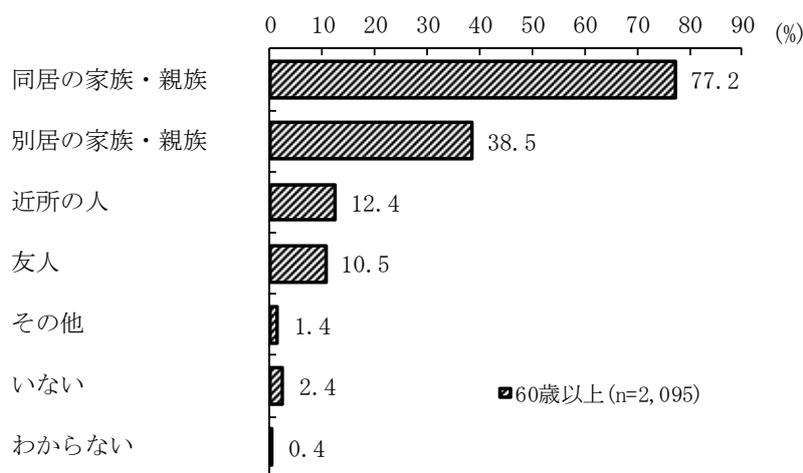
		(%)					
		総数	毎日	2日～3日に1回	1週間に1回	1週間に1回未満・殆ど話をしない	わからない
【 総 数 】		2095	91.6	5.1	1.4	1.8	0.0
男性	60～64歳	292	93.2	3.4	2.1	1.4	-
	65～69歳	242	89.3	6.2	2.5	2.1	-
	70～74歳	203	92.1	3.9	1.0	3.0	-
	75～79歳	149	89.9	7.4	2.0	0.7	-
80歳以上		104	91.3	5.8	1.0	1.9	-
女性	60～64歳	292	93.2	3.8	1.4	1.4	0.3
	65～69歳	241	92.9	5.0	-	2.1	-
	70～74歳	232	93.1	5.2	0.4	1.3	-
	75～79歳	194	89.7	6.7	2.6	1.0	-
80歳以上		146	89.0	6.2	1.4	3.4	-

(15) 頼れる人の存在の有無(Q36)

「病気のとときや、一人ではできない日常生活に必要な作業の手伝いなどについて頼れる人の有無」を尋ねてみると、「同居の家族・親族」が77.2%と最も高く、次いで、「別居の家族・親族」が38.5%となっている。「近所の人」が12.4%、「友人」が10.5%と続く。なお、「いない」は、2.4%とわずかである。

「あなたは、病気のとときや、一人ではできない日常生活に必要な作業（電球の交換や庭の手入れなど）の手伝いなどについて頼れる人はいますか。あてはまるものをすべてお答えください。」

(複数回答)

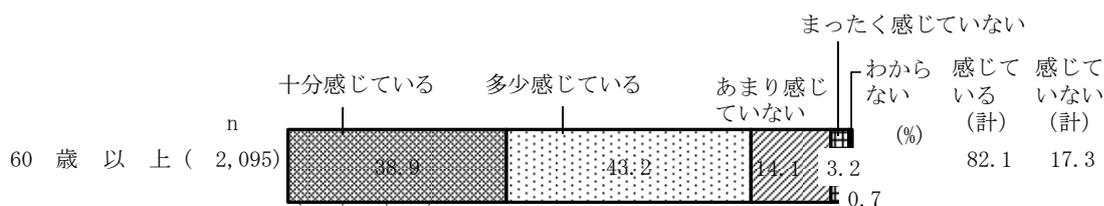


		(%)							
		総数	同居の家族・親族	別居の家族・親族	近所の人	友人	その他	いない	わからない
【 総 数 】		2095	77.2	38.5	12.4	10.5	1.4	2.4	0.4
男性	60～64歳	292	82.9	34.6	11.0	13.7	0.7	3.1	0.7
	65～69歳	242	82.2	36.0	9.9	10.7	-	3.3	0.4
	70～74歳	203	79.3	40.9	12.8	10.3	0.5	3.0	-
	75～79歳	149	77.2	38.3	12.1	6.7	2.0	2.0	0.7
	80歳以上	104	70.2	45.2	11.5	5.8	1.0	1.0	1.0
女性	60～64歳	292	84.6	41.1	11.3	13.7	0.7	2.1	0.3
	65～69歳	241	79.3	37.3	12.9	10.0	1.7	1.7	-
	70～74歳	232	75.0	33.6	16.4	11.2	0.9	2.6	-
	75～79歳	194	66.5	40.2	14.4	9.3	4.6	1.0	0.5
	80歳以上	146	59.6	45.2	12.3	6.8	4.1	4.1	0.7

(16) 生きがい(Q37)

「現在、どの程度生きがい（喜びや楽しみ）を感じているか」について尋ねてみると、「十分感じている」が 38.9%、「多少感じている」が 43.2%となっており、両方を合わせた『感じている（計）』が 82.1%となっている。一方、「あまり感じていない」は 14.1%、「まったく感じていない」が 3.2%となっており、両方を合わせた『感じていない（計）』は 17.3%となっている。

「あなたは、現在、どの程度生きがい(喜びや楽しみ)を感じていますか。」



		(%)							
		総数	十分感じている	多少感じている	あまり感じていない	まったく感じていない	わからない	感じている(計)	感じていない(計)
【 総 数 】		2095	38.9	43.2	14.1	3.2	0.7	82.1	17.3
男性	60～64歳	292	36.6	46.2	14.4	2.1	0.7	82.9	16.4
	65～69歳	242	31.0	47.9	17.8	2.5	0.8	78.9	20.2
	70～74歳	203	33.5	48.8	13.8	3.0	1.0	82.3	16.7
	75～79歳	149	32.2	43.6	17.4	4.7	2.0	75.8	22.1
	80歳以上	104	45.2	34.6	14.4	5.8	-	79.8	20.2
女性	60～64歳	292	45.2	40.4	12.3	1.7	0.3	85.6	14.0
	65～69歳	241	43.2	41.1	11.6	2.9	1.2	84.2	14.5
	70～74歳	232	43.1	39.7	11.6	5.6	-	82.8	17.2
	75～79歳	194	35.1	47.4	12.9	4.1	0.5	82.5	17.0
	80歳以上	146	44.5	36.3	17.8	1.4	-	80.8	19.2

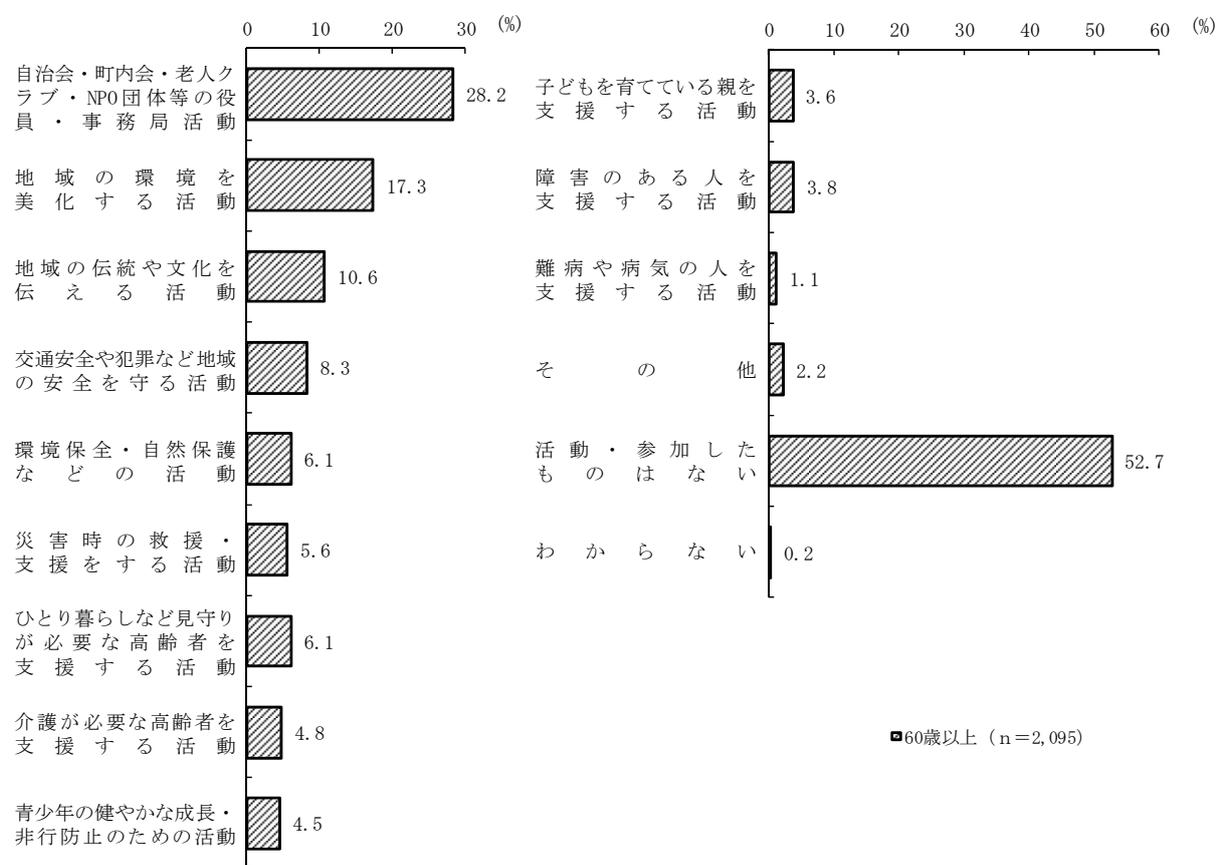
(地域活動、ボランティア活動に関する事項)

(17) 過去1年間に参加した地域・ボランティア活動(Q38)

「この1年間にどのような地域活動、ボランティア活動に参加したか」尋ねてみると、参加したのについては「自治会・町内会・老人クラブ・NPO 団体等の役員・事務局活動」が最も高く、28.2%となっている。以下、「地域の環境を美化する活動」が17.3%、「地域の伝統や文化を伝える活動」が10.6%などの順となっている。

なお、「活動・参加したものはなし」は52.7%となっている。

「あなたは、この1年間に、このような地域活動、ボランティア活動を行なった、または参加したことがありますか。」(複数回答)

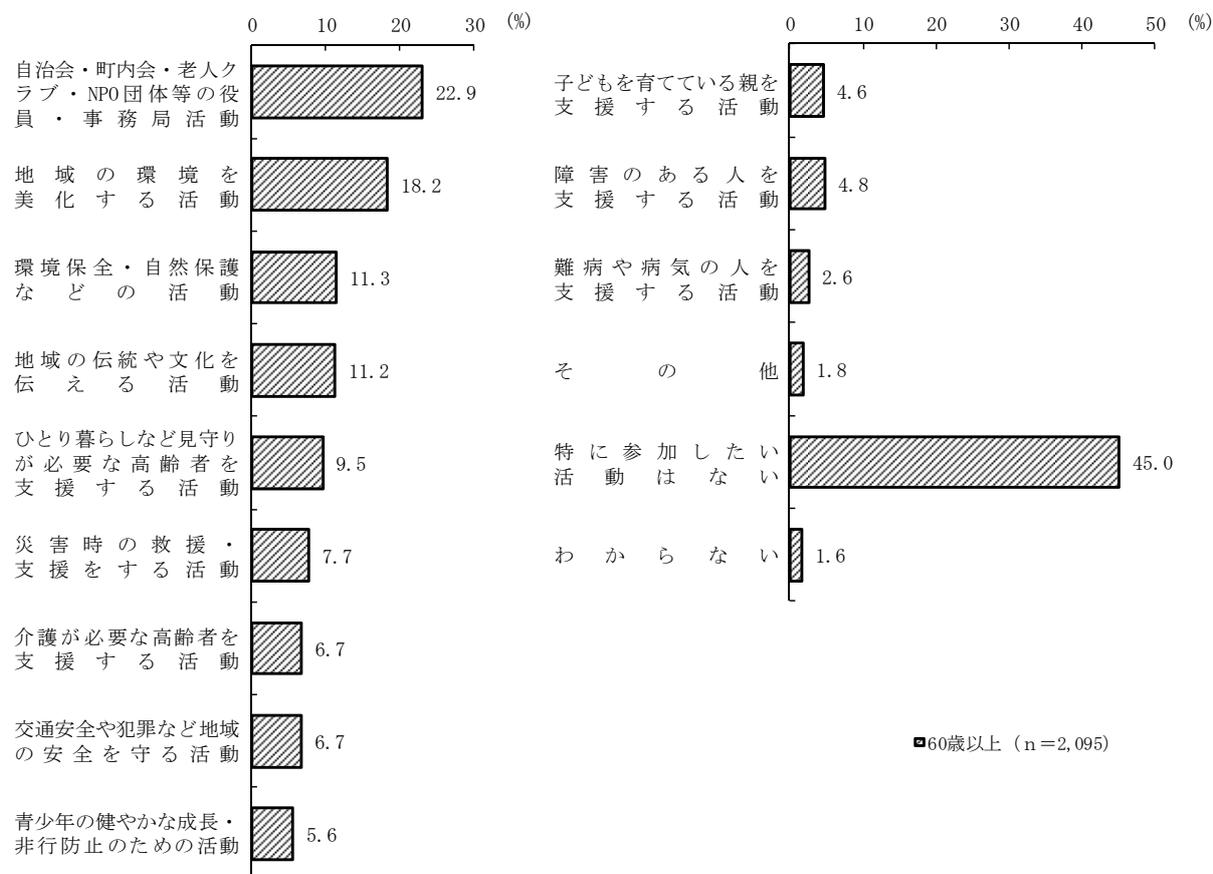


	総数	自治会・町内会の役員・事務局活動	地域の環境を美化する活動	地域の伝統や文化を伝える活動	交通安全など地域の安全を守る活動	見守りが必要な高齢者を支援する活動	環境保全・自然保護などの活動	災害時の救援・支援をする活動	介護が必要な高齢者を支援する活動	青少年の健やかな成長のための活動	障害のある人を支援する活動	子どもを育てている親を支援する活動	難病や病気の人を支援する活動	その他	活動・参加したことがある(計)	活動・参加したものはなし	わからない
【総数】	2095	28.2	17.3	10.6	8.3	6.1	6.1	5.6	4.8	4.5	3.8	3.6	1.1	2.2	47.0	52.7	0.2
男性	292	31.8	24.0	16.4	15.4	5.5	11.3	13.4	4.8	8.2	3.4	3.4	1.0	1.0	55.5	44.2	0.3
65~69歳	242	33.9	19.8	14.9	12.8	6.6	6.2	9.9	5.0	5.8	3.7	5.0	1.7	2.5	54.1	45.5	0.4
70~74歳	203	37.4	22.7	15.3	15.3	6.4	8.4	9.4	3.4	5.9	4.4	3.4	1.0	3.0	54.2	45.3	0.5
75~79歳	149	32.2	14.1	10.7	12.1	6.0	6.7	5.4	4.7	6.0	3.4	2.7	1.3	2.7	46.3	53.7	-
80歳以上	104	26.0	17.3	10.6	4.8	3.8	7.7	3.8	3.8	1.9	3.8	1.9	-	2.9	36.5	63.5	-
女性	292	22.3	13.4	7.9	2.4	7.9	3.1	2.7	4.8	4.1	4.5	3.8	1.4	3.1	45.2	54.5	0.3
65~69歳	241	30.3	19.5	12.0	8.3	7.9	5.4	2.9	5.8	3.3	5.8	5.4	0.8	1.2	54.8	45.2	-
70~74歳	232	25.0	16.4	6.0	1.7	5.2	4.3	1.3	6.0	1.7	3.4	3.4	1.7	3.0	44.0	56.0	-
75~79歳	194	23.2	12.4	5.2	4.1	4.6	5.2	2.6	5.7	1.5	3.6	3.6	1.0	1.5	35.6	64.4	-
80歳以上	146	16.4	7.5	2.7	2.7	4.1	1.4	-	2.1	4.1	0.7	1.4	0.7	1.4	27.4	71.9	0.7

(18) 今後参加したい地域・ボランティア活動(Q39)

「今後、参加したい地域活動、ボランティア活動は何か」尋ねてみると、参加したいものについては、「自治会・町内会・老人クラブ・NPO 団体等の役員・事務局活動」が最も高く、22.9%となっている。以下、「地域の環境を美化する活動」が 18.2%、「環境保全・自然保護などの活動」が 11.3%、「地域の伝統や文化を伝える活動」が 11.2%などの順になっている。なお、「特に参加したい活動はない」は 45.0%となっている。

「(現在参加している活動も含めて) あなたが、今後、参加したいと思われる地域活動、ボランティア活動は何ですか。」(複数回答)



■60歳以上 (n=2,095)

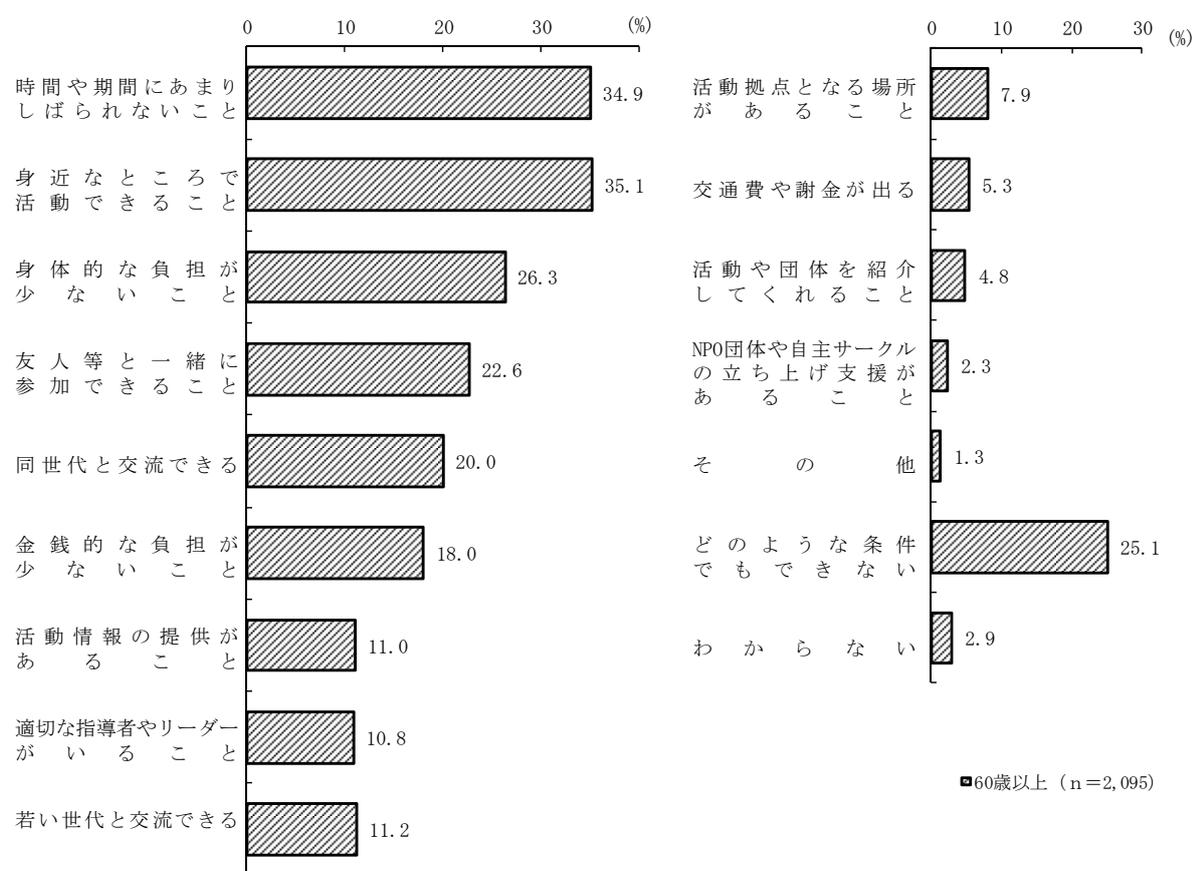
	総数	自治会・町内会の役員・事務局活動	地域の環境を美化する活動	環境保全・自然保護などの活動	地域の伝統や文化を伝える活動	見守りが必要な高齢者を支援する活動	災害時の救援・支援をする活動	介護が必要な高齢者を支援する活動	交通安全など地域の安全を守る活動	青少年の健やかな成長のための活動	障害のある人を支援する活動	子どもを育てている親を支援する活動	難病や病気の人を支援する活動	その他	参加したい活動がある(計)	特に参加したい活動はない	わからない
【 総 数 】	2095	22.9	18.2	11.3	11.2	9.5	7.7	6.7	6.7	5.6	4.8	4.6	2.6	1.8	53.4	45.0	1.6
男性																	
60～64歳	292	27.7	25.0	22.3	16.8	8.6	17.5	5.5	12.3	13.4	4.8	6.8	3.8	0.3	69.9	28.4	1.7
65～69歳	242	24.8	19.8	10.3	15.7	10.3	10.7	6.2	9.5	6.6	6.6	4.1	1.2	2.1	54.5	44.2	1.2
70～74歳	203	29.6	21.2	16.3	16.3	6.9	10.8	4.4	11.3	6.4	3.0	2.0	3.0	1.0	56.2	42.9	1.0
75～79歳	149	25.5	14.1	9.4	10.7	6.7	4.7	4.7	10.1	4.7	2.7	2.0	1.3	2.7	46.3	52.3	1.3
80歳以上	104	14.4	14.4	8.7	6.7	5.8	1.0	3.8	4.8	1.9	2.9	1.9	-	2.9	34.6	62.5	2.9
女性																	
60～64歳	292	20.2	23.6	11.0	11.3	14.0	6.5	11.6	2.4	5.8	8.6	9.2	3.1	1.4	64.7	32.9	2.4
65～69歳	241	22.4	20.7	12.0	11.2	15.8	7.5	10.4	7.1	4.1	6.2	7.1	5.4	2.1	62.7	35.7	1.7
70～74歳	232	24.6	13.8	5.2	7.3	9.5	3.9	7.8	1.3	1.7	4.7	1.7	2.6	3.0	49.1	49.6	1.3
75～79歳	194	19.6	11.9	7.7	4.6	6.2	3.1	4.6	5.2	2.6	2.1	3.1	1.5	2.6	38.1	60.3	1.5
80歳以上	146	12.3	5.5	2.1	3.4	4.8	1.4	2.7	0.7	2.7	1.4	2.1	0.7	1.4	24.0	74.7	1.4

(96)

(19) 地域・ボランティア活動に参加しやすい条件(Q40)

「今後、地域・ボランティア活動に参加する場合、どのような条件があれば参加しやすいか」尋ねてみると、「身近なところで活動できること」が35.1%と最も高く、次いで「時間や期間にあまりしぼられないこと」が34.9%、「身体的な負担が少ないこと」が26.3%、「友人等と一緒に参加できること」が22.6%、「同世代と交流できる」が20.0%、「金銭的な負担が少ないこと」が18.0%などの順となっている。

「今後、あなたが地域活動・ボランティア活動に参加する場合、どのような条件があれば参加・活動しやすい（又は参加・活動したい）と思いますか。」（複数回答）

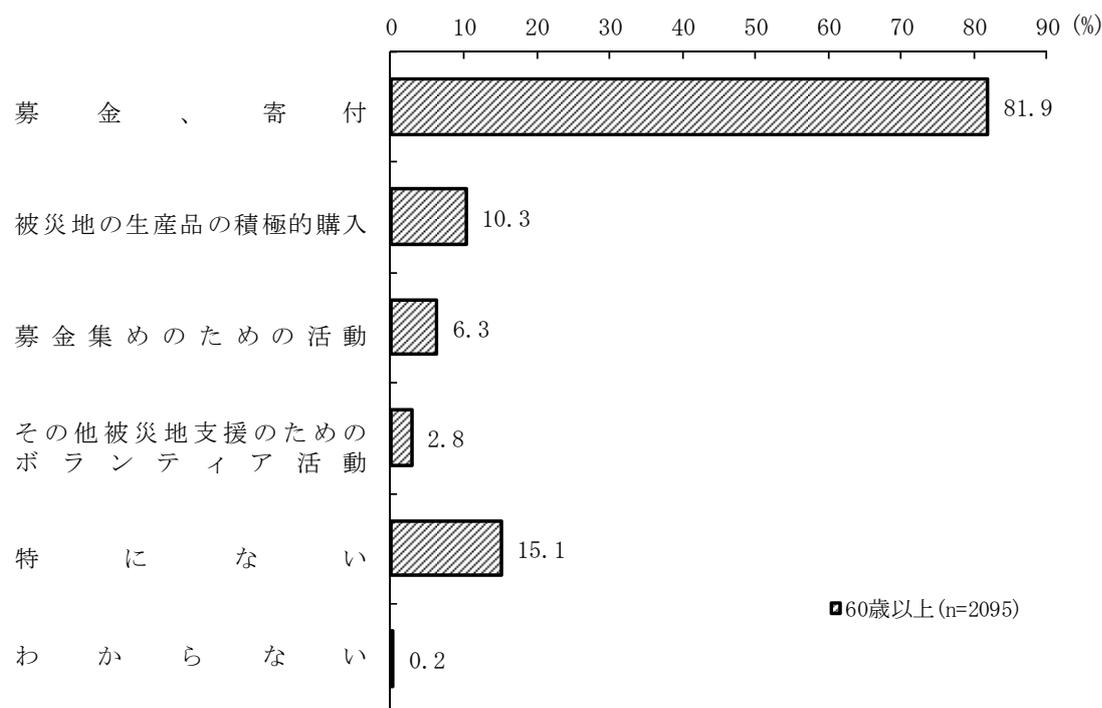


	総数	身近なところで活動できること	時間や期間にあまりしぼられないこと	身体的な負担が少ないこと	友人等と一緒に参加できること	同世代と交流できる	金銭的な負担が少ないこと	若い世代と交流できる	活動情報の提供があること	適切な指導者やリーダーがいること	活動拠点となる場所があること	交通費や謝金が出る	活動や団体を紹介してくれること	NPO団体の立ち上げ支援があること	その他	どのような条件でもできない	わからない
【総数】	2095	35.1	34.9	26.3	22.6	20.0	18.0	11.2	11.0	10.8	7.9	5.3	4.8	2.3	1.3	25.1	2.9
男性	292	39.4	51.4	23.3	21.9	25.7	23.6	19.9	22.9	13.0	15.8	9.2	9.9	3.4	0.7	10.6	2.7
60～64歳	242	34.7	40.5	23.6	19.8	16.5	20.2	12.0	12.8	12.4	9.5	5.0	5.8	2.9	1.2	20.2	2.5
65～69歳	203	32.0	33.5	29.6	23.6	23.6	17.7	13.3	13.8	11.8	11.8	8.4	2.5	3.0	0.5	21.2	3.4
70～74歳	149	25.5	20.8	26.8	19.5	16.8	14.8	6.7	9.4	8.1	5.4	4.7	4.0	1.3	1.3	35.6	0.7
75～79歳	104	21.2	14.4	18.3	13.5	6.7	5.8	5.8	1.9	2.9	4.8	2.9	-	-	2.9	44.2	6.7
80歳以上	292	50.0	49.7	29.1	27.1	27.4	26.0	12.0	14.0	14.7	7.5	5.1	8.6	2.4	0.3	11.6	2.7
女性	241	47.7	46.9	33.2	33.2	25.3	22.4	10.8	10.4	15.4	6.2	3.3	5.0	2.9	0.8	15.4	1.2
60～64歳	232	34.1	29.3	28.9	24.1	19.0	12.9	7.3	5.2	11.2	5.6	5.6	3.0	1.7	1.3	28.9	0.9
65～69歳	194	23.7	14.9	23.7	21.6	13.9	11.9	7.7	2.6	5.7	3.1	2.6	1.0	2.1	3.6	41.2	5.7
70～74歳	146	17.8	10.3	19.2	9.6	7.5	8.2	7.5	4.1	2.1	2.7	2.7	0.7	0.7	2.1	58.2	4.8

(20) 東日本大震災の被災地のために行った活動(Q41)

「東日本大震災の被災地のために行ったことはあるか」尋ねたところ、「募金、寄付」が最も高く、81.9%となっている。以下、「特にない」が15.1%、「被災地の生産品の積極的購入」が10.3%などの順になっている。

「東日本大震災における被災地のために行なったことはありますか。」(複数回答)



	総数	募金、寄付	被災地の生産品の積極的購入	募金集めのための活動	その他被災地支援ボランティア活動	特にない	わからない	行なったことがある(計)
【総数】	2095	81.9	10.3	6.3	2.8	15.1	0.2	84.6
男性								
60～64歳	292	83.6	11.6	7.2	4.8	12.0	-	88.0
65～69歳	242	86.0	13.2	8.3	3.3	12.4	0.4	87.2
70～74歳	203	83.3	8.4	8.4	3.4	12.8	-	87.2
75～79歳	149	77.2	7.4	8.1	0.7	21.5	-	78.5
80歳以上	104	75.0	5.8	5.8	1.9	21.2	-	78.8
女性								
60～64歳	292	88.7	13.0	7.2	3.8	7.5	0.3	92.1
65～69歳	241	88.0	13.3	7.9	2.5	10.0	0.4	89.6
70～74歳	232	80.2	9.9	2.2	2.2	16.4	0.9	82.8
75～79歳	194	74.2	7.7	3.6	1.5	23.7	-	76.3
80歳以上	146	69.2	5.5	2.1	0.7	28.8	-	71.2

(高齢者政策や支援に関する事項)

(21) 満足している政策や支援(Q42)

「高齢者に対する政策や支援のうち、満足している政策や支援」について尋ねてみると、上位3項目は「介護や福祉サービス」(20.0%)、「医療サービス」(18.5%)、「公的な年金制度」(12.6%)の順となっている。次いで、「高齢者に配慮したまちづくり」が6.7%と続く。なお、「特にない」は48.4%と、5割弱が回答している。

ここから、「特にない」と「わからない」を除き、満足している政策や支援をみると、上位3項目は「介護や福祉サービス」(45.2%)、「医療サービス」(41.8%)、「公的な年金制度」(28.4%)となっている。

高齢者に対する政策や支援のうち、あなたが満足している政策や支援はありますか。(複数回答)

(総数ベース)

								(%)
総数	介護や福祉サービス	医療サービス	公的な年金制度	高齢者に配慮したまちづくり	学習のための場の確保	ボランティア活動のための場の確保	事故や犯罪防止(財産目当ての犯罪等)	
2,095	20.0	18.5	12.6	6.7	5.6	3.9	2.8	
働く場の確保	高齢者の人権について一般市民の理解の促進	高齢者向けの住宅	老後のための個人的な財産形成の支援	その他	特にない	わからない		
2.7	2.5	2.0	1.0	0.7	48.4	7.4		

(総数より「特にない」「わからない」を除く)

								(%)
総数	介護や福祉サービス	医療サービス	公的な年金制度	高齢者に配慮したまちづくり	学習のための場の確保	ボランティア活動のための場の確保	事故や犯罪防止(財産目当ての犯罪等)	
926	45.2	41.8	28.4	15.2	12.7	8.9	6.3	
働く場の確保	高齢者の人権について一般市民の理解の促進	高齢者向けの住宅	老後のための個人的な財産形成の支援	その他				
6.0	5.6	4.4	2.3	1.5				

(22) 今後特に力を入れて欲しい政策や支援(Q43)

「高齢者に対する政策や支援のうち、今後特に力を入れて欲しい政策や支援」について尋ねてみると、上位3項目は「介護や福祉サービス」(65.1%)、「医療サービス」(60.6%)、「公的な年金制度」(42.2%)の順となっている。次いで、「高齢者に配慮したまちづくり」が20.7%と続く。

ここから、「特にない」と「わからない」を除き、特に力を入れて欲しい政策や支援をみると、上位3項目は「介護や福祉サービス」(69.6%)、「医療サービス」(64.9%)、「公的な年金制度」(45.2%)となっている。

高齢者に対する政策や支援のうち、あなたが今後特に力を入れて欲しい政策や支援はありますか。

(3つまでの複数回答)

(総数ベース)

(%)								
総数	介護や福祉サービス	医療サービス	公的な年金制度	高齢者に配慮したまちづくり	働く場の確保	高齢者向けの住宅	事故や犯罪防止(財産目当ての犯罪等)	ボランティア活動のための場の確保
2,095	65.1	60.6	42.2	20.7	12.4	9.2	9.0	6.7
高齢者の人権について一般市民の理解の促進	学習のための場の確保	老後のための個人的な財産形成の支援	高齢者を対象とした結婚を支援するための出会いの場の確保	その他	特にない	わからない		
5.8	5.5	4.1	1.1	1.8	5.6	1.0		

(総数より「特にない」「わからない」を除く)

(%)								
総数	介護や福祉サービス	医療サービス	公的な年金制度	高齢者に配慮したまちづくり	働く場の確保	高齢者向けの住宅	事故や犯罪防止(財産目当ての犯罪等)	ボランティア活動のための場の確保
1,957	69.6	64.9	45.2	22.1	13.3	9.9	9.7	7.2
高齢者の人権について一般市民の理解の促進	学習のための場の確保	老後のための個人的な財産形成の支援	高齢者を対象とした結婚を支援するための出会いの場の確保	その他				
6.2	5.9	4.3	1.2	1.9				